

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	産業研究所
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学内教員を核とした共同研究を常時3プロジェクト設置し、加えて毎年臨時的プロジェクトを1つ以上運営する。	→各研究プロジェクトの定例研究会のうち公開型を2回以上開催する。終了後1年以内に研究成果の公刊。	A	A	B	B	
2. 常時運営する3つの共同研究のテーマは、いずれも国際性、あるいは地域連携と結びついた内容とする。	→プロジェクトは国際性か社会連携性のあるテーマ設定とそれにふさわしいメンバー（学外者を必須）を編成。	A	A	A	A	
3. EUインスティテュート関西事業、EU情報センター活動、および日中経済シンポジウムを毎年運営する。	→産業研究所の運営するEUIJ関西シンポジウム、日中経済シンポジウムを毎年各1回以上開催。	A	A	A	A	
4. 産業研究所の共同研究活動の成果は、毎年出版物として公刊するのみでなく、講演会で教育活動や社会に還元する。	→学外公開型講演会・セミナーを年10回以上開催。東京での講演会を毎年開催し、首都圏での学術情報発信を行う。	B	A	A	B	
5. 経済・産業学術情報データベースを維持・更新して、研究者、学生に利用（検索）提供し、研究活動に寄与する。	→データベースに、毎年8千件以上の論文記事データの追加入力。	A	A	A	A	

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	前年度共同研究「アジアにおける市場性と産業競争力」は『アジアにおける市場性と産業競争力』として2013年1月に刊行。また、本年度は、①「日本の国際開発援助事業」、②「公共インフラの整備と地域振興政策の推進」、③「生産性の現代的意義」を実施、①の成果は2013年度秋ごろ刊行予定。③の成果は公開型の研究会として商・経学部開講科目として学生の参加を得た。
目標2	①「日本の国際開発援助事業」(代表：鷺尾)は、黒田篤郎(JICA)、石田正美(JETRO)らと、②「公共インフラの整備と地域振興政策の推進」(代表：長峯)は、林 亮輔(鹿児島大)、林田吉恵(島根県立大)らと、③「生産性の現代的意義」(代表：梶浦)は甲斐野眞次(パナソニック株)、澤静治(ダイキン工業株)、辻本健二(財関西生産性本部)らを迎えて研究活動を行った。
目標3	①EUIJ関西セミナーを実施(2013年2月25日・東京丸の内キャンパス) Kazimierz Gorka氏(クラクフ経済大学教授)「EUとポーランドにおける環境政策の経済的手法」、②駐日欧州連合(EU)代表部(東京)へ関学生8名が訪問(2013年2月19日)、などを実施した。
目標4	『新関西国際空港キックオフシンポジウム「アジア交流・新時代の到来」』(2012年6月13日)、『EUIJ関西国際シンポジウム「日欧の高齢化社会を考えるー活力のある高齢化社会とはー社会的側面と経済への挑戦ー」』(2012年10月11日)等を開催。なお、2012年2月に開催された日中経済シンポジウムに関しては報告書を作成した。
目標5	2012年度は10,819件の論文記事データを追加入力・更新した。学内教員に記事データにもとづくレビュー記事執筆を依頼しホームページでの発信も実施。また、来室する学生・研究者の利用環境を改善するため検索用端末を入れ替えた。
備考	